

中高科学部連携研究発表会

11月12日(土) 中高科学部連携研究会にて理科学研究部が「本校でのカワバタモロコの保護繁殖と生態調査」について発表しました。



参加校

太子中学校	社会科学部(3題発表)
富田林高校	科学部(3題発表)
懐風館高校	理科学研究部(1題発表)

理科学研究部は1年女子部員1名のみという「絶滅危惧部」であるため、1題だけの発表となりました。内容は本校中庭噴水池および駒ヶ谷地区新池でのカワバタモロコの生息域外保全活動、噴水池での生態調査(体長・体重の測定、産卵数調査)についての報告です。体長・体重の測定はもんどりという罠で捕獲して行うのですが、今年の夏は何故か入りが悪く十分なデータが取れませんでした。産卵数調査は4月下旬から7月末まで平日の朝ほぼ毎日、麻縄を束ねた産卵基質(産卵させるための素材)についている卵数を数えるという地道な調査です。今年は4月末から6月末まで1週間~10日ぐらいの周期で増減を繰り返しながら多数の産卵が確認できました。この調査については富田林高校科学部顧問の先生から「根気のいる調査でありこれを続けたことは素晴らしい。うちの科学部も見習ってほしい」とのお褒めの言葉をいただきました。

他の2校の発表は、富田林高校は言わずもがな、太子中学校も非常にレベルが高く圧倒されました。また、両校のゲンジボタルの生息環境回復についての研究は、お互いに連絡を取り合っていたわけでもないのに着眼点や研究手法が非常に似通っており驚かされました。科学史ではよく似た内容の研究が同時期に複数の研究者によって独立に行われることが結構ありますが、それを目の当たりにできました。

昼食時には生徒同士の意見交換会も行われ、大変意義深い交流ができました。今後も定期的開催し、将来的には参加校の増加や「研究紀要」の発行などもできればいいなど、夢を広げつつ散会しました。